

早期診断・治療で認知症にやさしい社会を

公益財団法人浅香山病院精神科部長・認知症疾患医療センター長
大阪大学大学院連合小児発達学研究科
行動神経学・神経精神医学特任講師(兼務)

釜江(繁信) 和恵先生



認知症になつたら、どのように暮らしていくのだろうか。先行きが見えない不安にかられるが、早期診断・治療やさまざまな支援を通して認知症にやさしい社会にしたい。このような課題に先進的に取り組んでいる公益財團法人浅香山病院(大阪府堺市)の認知症疾患医療センター長、釜江(繁信)和恵さんに、地域の精神科医療の現状についてお聞きしました。

(聞き手・池田知隆)

病院内での取り組みから

精神科が中心の総合病院で、前身の堺脳病院は1922(大正11)年に開設し、今年で100周年を迎えました。病床数は1003床(一般科223床、精神科780床)あります。認知症の診療をするにあたっても、R-I(ラジオアイソトープ)の機器やMRI(磁気共鳴画像検査装置)を備え、精神科には堺市から委託

——認知症疾患医療センターはいつから。厚労省が「認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト」を打ち出した2008年に設置しました。堺市内には2カ所に設けられ、当院は北プロックは阪南病院(2010年開設)が担当しています。

業務内容は、「専門医療相談」「鑑別診断」とそ

れに基づく初期対応」「合併症・周辺症状への急性期対応」かかりつけ医等への研修会の開催」「認知症疾患医療連携協議会の開催」「情報発信」になります。近年では診断後支援も行う

——認知症疾患医療センターはいつから。厚労省が「認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト」を打ち出した2008年に設置しました。堺市内には2カ所に設けられ、当院は北プロックは阪南病院(2010年開設)が担当しています。

業務内容は、「専門医療相談」「鑑別診断」とそ

れに基づく初期対応」「合併症・周辺症状への急性期対応」かかりつけ医等への研修会の開催」「認知症疾患医療連携協議会の開催」「情報発信」になります。近年では診断後支援も行う

——認知症になりやすい人の特徴は。なりやすい特徴というのはありません。脳血管認知症は、生活習慣病(高血圧や糖尿病)の治療をしていないと、発症の危険性が高い。規則正しい生活や適度な運動をしている方などはなりにくくとも言われます。そことは言えない部分もあります。

そこでは、それぞれの疾患の特性にあつたケアを開発し、就労支援や介護保険や障害福祉サービスの利用、経済的支援など総合的な情報提供の場にしています。

——地域での支援も必要ですね。介護保険が利用できない軽い方たちや、自立されている方たちに対する地域社会や行政が支援していくことも課題です。この「ラフラフ」を卒業した家族は、堺市や大阪市内の若年性認知症ご本人のお子さんです。親が認知症になつたことをどう受け止めればいいかわからず、悩んでいます。家族と一緒に医師の説明を聞いて認知症を理解してもらい、みんなで前向きな時間の過ごし方ができるようにコミュニケーションを図つてしまいですね。

——医者の道は

両親は会社員の父と主婦の母で、医療とは全く無関係な環境で育ちました。小・中学校で



ラフラフの様子(当日)

ラフラフの様子(餅つき準備)

ことが求められています。
——早期診断が大事ですね。

認知症でカギを握るのは、早く気づき、きちんと適切に対応することで、そのことがとても大事です。最近では比較的早い時期に異変に気づき、早期に診断を受ける人が増えました。認知症をめぐる職場の理解も進み、若くて症状が軽い方が抵抗なく受診されるようになり、現役世代の受診者も増えました。

仕事でミスが続き、ご本人が「なにかおかしい」と悩んでも、認知症だとは思わず、疲れやストレスのせいで放置してしまうケースも少なくありません。ご家族や周りにいる人たちも「そのくらい大丈夫などと安易にどちらかわらず、心配があれば、早めの受診を勧めてください。検査や診断技術も上がっています。仕事を続け、経済的な支援制度を利用するためにも早期の診断は不可欠です。

——認知症になりやすい人の特徴は。

なりやすい特徴というのはありません。脳血管認知症は、生活習慣病(高血圧や糖尿病)の治療をしていないと、発症の危険性が高い。規則正しい生活や適度な運動をしている方などはなりにくくとも言われます。そことは言えない部分もあります。

仕事のミスが多く、若年症認知症ではないかと調べてみると、重度の睡眠時無呼吸症候群であつたような場合もあります。きちんと鑑別することが大事です。逆に、安易にアルツハイマー病と診断してしまうと、「治らない病気ですね」と判断され、傷病休暇を使って退職してしまうようなこともあります。アル

を決める制度ではなく、卒業間際のぎりぎりのときには、大阪大学医学研究科(精神医学分野)におられる池田学教授(当時、西高3年の終わるところでした)。

——医学部生活はいかがでしたか。愛媛大学医学部の部活でバトミントンに打ち込んでいました。1、2年生の時は松山城近くの城北キャンパスで過ごしましたが、3年生になると田んぼに囲まれた重信キャンパス内の医学部附属病院に詰めるようになり、華やかな大学生活とは無縁でした。

——精神科の選択は。そこからは初期研修(2年間)したあと専攻

を決める制度ではなく、卒業間際のぎりぎりのときには、大阪大学医学研究科(精神医学分野)におられる池田学教授(当時、西高3年の終わるところでした)。

——医学部生活はいかがでしたか。愛媛大学医学部の部活でバトミントンに打ち込んでいました。1、2年生の時は松山城近くの城北キャンパスで過ごしましたが、3年生になると田んぼに囲まれた重信キャンパス内の医学部附属病院に詰めるようになり、華やかな大学生活とは無縁でした。

——精神科の選択は。そこからは初期研修(2年間)したあと専攻

を決める制度ではなく、卒業間際のぎりぎりのときには、大阪大学医学研究科(精神医学分野)におられる池田学教授(当時、西高3年の終わるところでした)。

——医学部生活はいかがでしたか。愛媛大学医学部の部活でバトミントンに打ち込んでいました。1、2年生の時は松山城近くの城北キャンパスで過ごしましたが、3年生になると田んぼに囲まれた重信キャンパス内の医学部附属病院に詰めるようになり、華やかな大学生活とは無縁でした。

——精神科の選択は。

そこからは初期研修(2年間)したあと専攻

ツハイマー病の診断が間違つていれば退職してから5年10年も経つても進行しないというような事態が起り得ますので、とても慎重にしないといけません。

——若年性認知症への関心も高いですね。65歳未満で発症すると、若年性認知症とされた患者さんを診察した経験があります。高齢者の認知症より進行が早いことが多く、なにかには発症から4~5年で後期に移る人もいます。中期までは認知機能が低下しても体は元気なので、スポーツや趣味、ボランティアなどの活動を行えば、気分転換やストレスの発散ができます。ご本人が達成感や充実感を得られる機会をつくっていただきたいです。また介護保険の利用に至らないような初期の方たちを、どう支援していくかが今後の課題です。

特定の疾患の認知症の方は40歳から介護保険サービスを利用できます。若年性認知症の人は、デイサービスなどの施設に通つても、利用者のほとんどが高齢なので、年々気になじめないことでも多く、本人に適した居場所が見つけにくいかもしれません。そこで若年性認知症対応のデイサービスや作業所で、本人と会話、家族会などが各地に立ち上がり、当事者同士で交流を深めながら認知症の啓発活動に意欲を燃やし、生きがいを持つて暮らす人も増えています。当院でも、若年性認知症の本人と家族による会「ラフラフ」を発足させていました。

——病院内に支援の場も。特定の疾患の認知症の方は40歳から介護保険サービスを利用できます。若年性認知症の人は、デイサービスなどの施設に通つても、利用者のほとんどが高齢なので、年々気になじめないことでも多く、本人に適した居場所が見つけにくいかもしれません。そこで若年性認知症対応のデイサービスや作業所で、本人と会話、家族会などが各地に立ち上がり、当事者同士で交流を深めながら認知症の啓発活動に意欲を燃やし、生きがいを持つて暮らす人も増えています。当院でも、若年性認知症の本人と家族による会「ラフラフ」を発足させていました。

概ね65歳未満で発症された初期の認知症患者の行動が、理屈で見ると、行動が現れやすくなります。普通、人前では言わないうようなことを平気で言ったり、こだわりが強くなつて同じ時間に同じことを繰り返したりなどの症状が見られます。

——理屈で見ると、行動が現れやすくなります。普通、人前では言わないうようなことを平気で言ったり、こだわりが強くなつて同じ時間に同じことを繰り返したりなどの症状が見られます。

——理屈で見ると、行動が現れやすくなります。普通、人前では言わないうようなことを平気で言ったり、こだわりが強くなつて同じ時間に同じことを繰り返したりなどの症状が見られます。

——理屈で見ると、行動が現れやすくなります。普通、人前では言わないうようなことを平気で言ったり、こだわりが強くなつて同じ時間に同じことを繰り返したりなどの症状が見られます。

——理屈で見ると、行動が現れやすくなります。普通、人前では言わないうようなことを平気で言ったり、こだわりが強くなつて同じ時間に同じことを繰り返したりなどの症状が見られます。

——理屈で見ると、行動が現れやすくなります。普通、人前では言わないうようなことを平気で言ったり、こだわりが強くなつて同じ時間に同じことを繰り返したりなどの症状が見られます。

——理屈で見ると、行動が現れやすくなります。普通、人前では言わないうようなことを平気で言ったり、こだわりが強くなつて同じ時間に同じことを繰り返したりなどの症状が見られます。

——理屈で見ると、行動が現れやすくなります。普通、人前では言わないうようなことを平気で言ったり、こだわりが強くなつて同じ時間に同じことを繰り返したりなどの症状が見られます。

——理屈で見ると、行動が現れやすくなります。普通、人前では言わないうようなことを平気で言ったり、こだわりが強くなつて同じ時間に同じことを繰り返したりなどの症状が見られます。

——理屈で見ると、行動が現れやすくなります。普通、人前では言わないうようなことを平気で言ったり、こだわりが強くなつて同じ時間に同じことを繰り返したりなどの症状が見られます。

に、かかりつけ医が早く初期症状をつかみ、当センターで鑑別して治療方針を決め、典型的なケースでは、再びかかりつけ医に戻つてもらいます。

専門医療機関としての当センターの役割は、鑑別診断・治療方針の選定、BPSD（認知症周辺症状）の治療・家族指導・適切な介護サービスの導入になります。かかりつけ医が診療科目に関係なく認知症について一定の知識と理解を持つて対応することが重要であるとの考え方から、「認知症相談医」を募り、リストを開いています。

——一番の課題は。

高齢者の独居世帯や老老世帯は増加の一途をたどっています。独居世帯の人は認知症への気づきが遅れがちで、かなり進行した段階で診断する結果になっています。すでに生活が破綻してしまっているケースも少なくなく、その段階になると周囲からの支援が難しくなります。堺市では「初期集中支援チーム」をつくり、高齢者に対しても早期診断できるように対応しています。

——認知症医療を担当医としてのやりがいは。

認知症はそのほとんどがそれまで長く人生過ごしてこられた高齢者の慢性の疾患で、身体疾患を合併することが多いため、生物学的側面や疾患のみにとらわれず、社会面・経済面・心理面などのさまざまな視点からも捉える全人的な医療が必要とされます。介護・福祉の関係者、保健師、行政など多様な人々とのつながりを通して、学ぶことも多く、とてもやりがいがあります。

とにかく認知症については、将来に備えて医療や介護をどうしていくのか、ご本人が気な時に家族で少しずつ話し合っておくことが大切ですね。認知症をめぐる社会連携を足がかりに、地域で一丸となって精神医療に取り組むことができる健康社会への仕組みづくりが急がれています。

釜江(繁信)和恵さんの略歴

1972年6月	愛媛県今治市生まれ
1991年4月	愛媛県立今治西高校卒業
1997年3月	愛媛大学医学部医学科卒業
1997年4月	神経精神医学教室入局
1997年5月	附属病院神経科精神科
1998年4月	医学科大学院入学(神経精神医学)
2002年3月	同 卒業。医学博士取得
2002年4月	附属病院神経科精神科医員
2002年6月～	公益財団法人浅香山病院精神科医員
2009年10月～	精神科・認知症疾患医療センター長
2018年～	大阪大学大学院連合小児発達研究科行動神経学・神経精神医学特任講師(兼務)

精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医、日本老年精神医学会専門医・指導医、日本認知症学会専門医・代議員・指導医、日本高次脳機能障害学会・代議員、日本神経心理学会・評議員



〒590-0018 大阪府堺市堺区今池町3丁3-16

精神科病院の堺脳病院と内科を中心とする旧浅香山病院が合併した総合病院。
精神科救急と一般救急をともに備え、日本医療機能評価機構認定病院となっている。
病床数1003床(一般病床223床、精神病床・780床)。